

○ 本校の概要

大田区学習効果測定の結果ではほとんどの学年・教科で目標値を上回っている。特に、算数においては基礎・活用と分けても、観点別でも、全てにおいて目標値を上回る。この結果は、区の施策に従って実施している算数のステップ学習や補習教室、習熟度別指導が効果的に機能していると考えられる。学習効果測定の結果を学年ごとに見ると、4年は社会・理科では目標値を下回っていた。特に社会の活用分野においては目標値を大きく下回る。5年は全ての教科において目標値を上回るが、理科「観察・実験の技能」領域では目標値を下回る。6年は全ての教科において目標値を上回るが、算数以外の活用分野では目標値を下回る。目標値を下回る学習に関しては、「授業改善推進プラン」をもとに、改善に取り組んでいく。また、本年度の校内研究(国語、社会、生活単元学習)を生かして、教科の特性を大切に指導し、基礎的な力を確実に育むことを目指す。そして、基礎的な力を活用して、思考力・表現力・判断力を伸ばしていけるように指導する。校内研究を中心に、教職員の授業力の向上に取り組み、児童の学力を伸ばしていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が95%以上だった。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3:児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が90%以上だった。
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	2:児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が85%以上だった。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が80%未満だった。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:児童アンケートで「あいさつは自分からする」、よく当てはまると回答した児童の割合が60%以上だった。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:児童アンケートで「あいさつは自分からする」、よく当てはまると回答した児童の割合が50%以上だった。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2:児童アンケートで「あいさつは自分からする」、よく当てはまると回答した児童の割合が40%以上だった。
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1:児童アンケートで「あいさつは自分からする」、よく当てはまると回答した児童の割合が40%未満だった。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:児童アンケートで「体力がだんだんついてきたと思う」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が80%以上だった。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:児童アンケートで「体力がだんだんついてきたと思う」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が70%以上だった。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:児童アンケートで「体力がだんだんついてきたと思う」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が60%以上だった。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	
		「元氣もりりタイム」を活用し、運動好きの児童を育て、児童の体力向上を図る。	1:児童アンケートで「体力がだんだんついてきたと思う」に対し、よく当てはまると回答した児童の割合が60%未満だった。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:保護者アンケートで「学校は、一人一人の子どもに基礎基本が定着するよう、指導方法の工夫に努めている」に対し当てはまる・やや当てはまると回答した保護者の割合が90%以上だった。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	3:保護者アンケートで「学校は、一人一人の子どもに基礎基本が定着するよう、指導方法の工夫に努めている」に対し当てはまる・やや当てはまると回答した保護者の割合が80%以上だった。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2:保護者アンケートで「学校は、一人一人の子どもに基礎基本が定着するよう、指導方法の工夫に努めている」に対し当てはまる・やや当てはまると回答した保護者の割合が70%以上だった。
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:保護者アンケートで「学校は、一人一人の子どもに基礎基本が定着するよう、指導方法の工夫に努めている」に対し当てはまる・やや当てはまると回答した保護者の割合が70%未満だった。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:夏季ワクワクスクールではPTAや地域の方が主催する講座の児童の延べ参加者数が昨年を20%上回った。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:夏季ワクワクスクールではPTAや地域の方が主催する講座の児童の延べ参加者数が昨年を10%上回った。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:夏季ワクワクスクールではPTAや地域の方が主催する講座の児童の延べ参加者数が昨年とかわらなかった。
		夏季わくわくスクールのPTAや地域の方が主催する講座数を増やし地域との協働を推進する。	
		地域行事に参加する。	1:夏季ワクワクスクールではPTAや地域の方が主催する講座の児童の延べ参加者数が昨年より少なかった。
オリパラ	大田区のオリンピック・パラリンピックアクションプログラムの一つ「ブルートライアングルプロジェクト」に積極的に参加する。		4:児童アンケートで羽化を観察したと回答したクラスの割合が90%以上だった。
			3:児童アンケートで羽化を観察したと回答したクラスの割合が80%以上だった。
			2:児童アンケートで羽化を観察したと回答したクラスの割合が70%以上だった。
			1:児童アンケートで羽化を観察したと回答したクラスの割合が60%以上だった。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。